

自転車利用実態定点調査票

	走行空間			車種		雨天		危険運転行為						
	車道左側	車道右側	歩道	自転車	電動	雨	雪	携帯電話	スピード出し過ぎ	片手運転	立ち漕ぎ	ハンドルに荷物	後部席に荷物	その他
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														

調査日時：	平成	年	月	日（ ）
天気：				風速：
調査時間：			～	

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、17～44%と多岐にわたるが、平均すると23%程度である。

依然、歩道を通行する自転車が多く、今回も、全体の7割強を占めている。同一地点(個別データ)においても、午前と午後で異なったデータとなっている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(241件)・ハンドルに荷物(102件)・片手運転(102件/内13件は、携帯電話を使用しながらの運転)・歩道上でのスピードの出しすぎ(64件)・過積載(44件)・立ち漕ぎ/子乗せ後部席に荷物掛け(*1)(各30件)・脇見運転(27件)・ジグザグ運転(20件)・車道右側走行(15件)等の順となっている。

*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

【総合】

今回は、平成 30 年度第 4 回目の調査となり、前回のデータと様々な点で比較してみた。

- ・利用者別 今回も、午前が午後の利用者を上回った。
- ・車道左側走行率 今回(23.4%)は、前回(24.2%)と同様の水準である。
 なお、午前 (23.4%)は、前回 (23.5%)と同様の水準である。
 また、午後 (23.4%)は、前回 (25.2%)の 9 割の水準である。
- ・子乗せ自転車 今回(20.8%)は、前回 (21.4%)と同様の水準である。
 なお、同自転車における同乗者あり(40.1%)の場合でのヘルメット着用率は、82.3%(週平均は、80~87%の範囲で推移)である。
 今回(82.3%)は、前回(77.3%)の 1.1 倍の水準である。
- ・電動自転車 今回(31.7%)は、前回 (31.9%)と同様の水準である。
- ・危険運転行為 上位 3 件別では、[肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転] の順である。
(違反行為を含む) 一方、下位 3 件別では、[脇見運転・ジグザグ運転・車道右側走行] の順である。

なお、今回も、肩に荷物・ハンドルに荷物だけで、全体(682 件)の 5 割(343 件)を占める形となった。

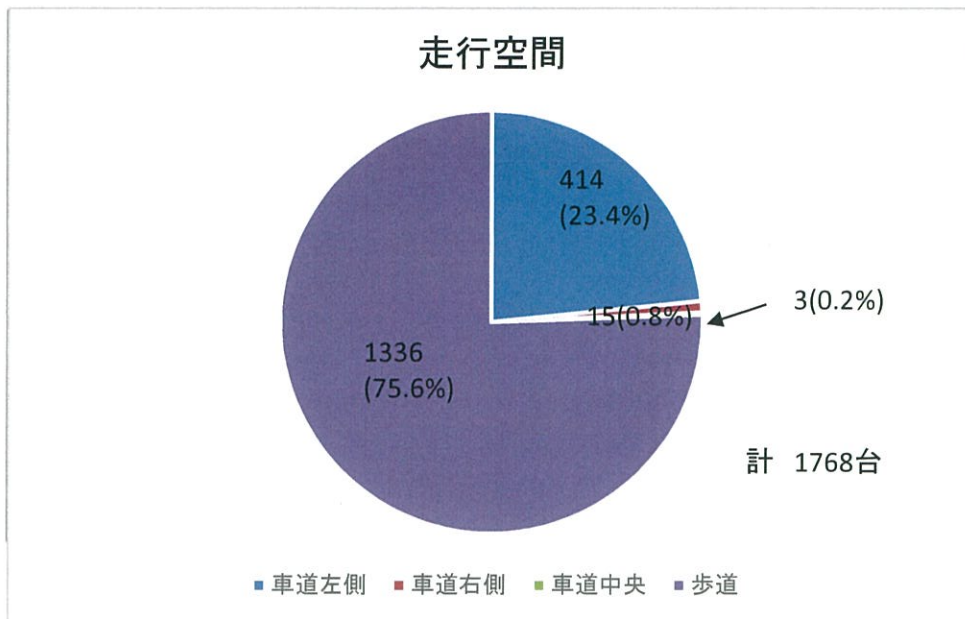
(危険防止の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)

また、利用者全体(1768 名)における危険運転行為(違反行為を含み 682 件)の比率は、割合上(*2)では、35%となっている。

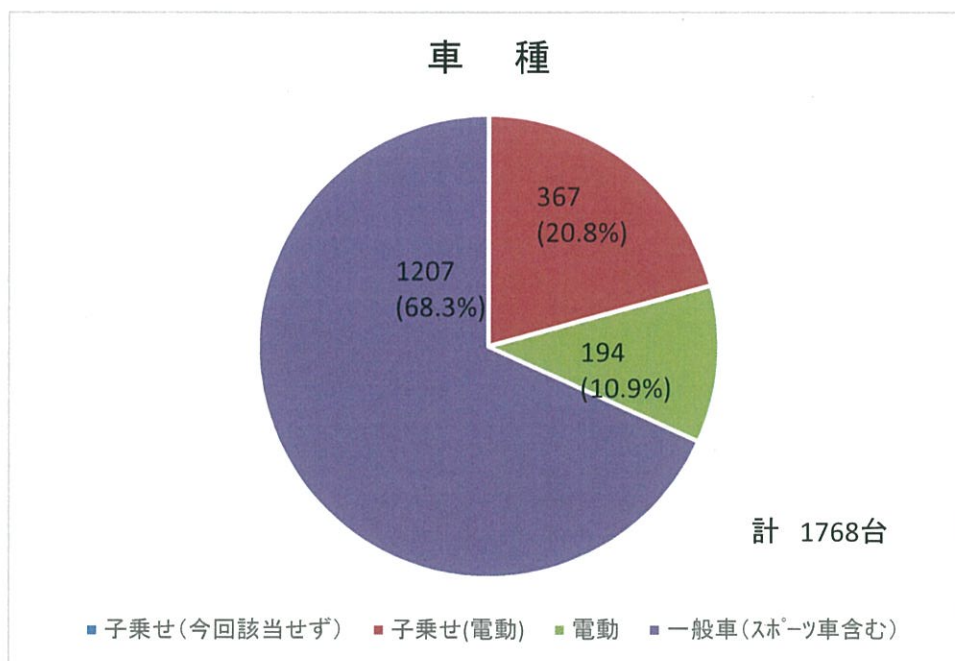
*2 実際は、1 名で複数の危険運転行為等を実施している件(60 件)も含まれるため

今回の雨天時のデータは、傘さし運転者(計 10 人)に対し、合羽着用者(計 14 人)で 1.4 倍であった。

調査期間は、2 日間であった。

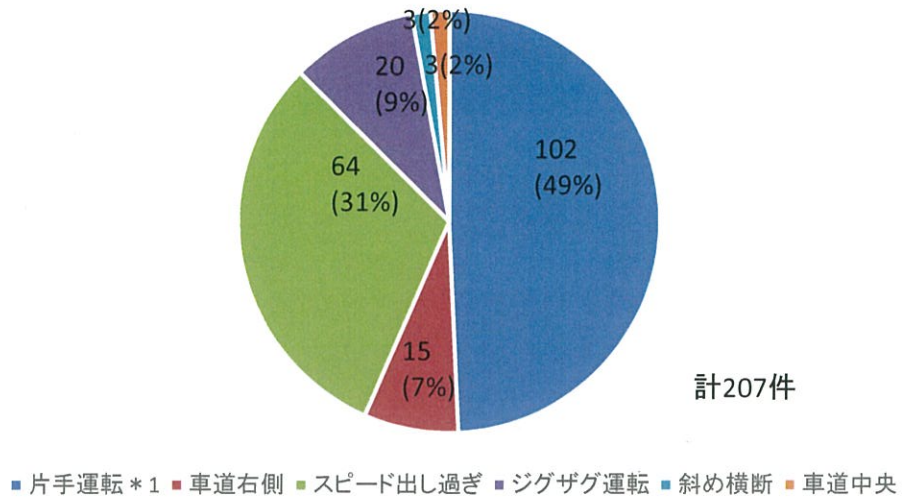


調査期間 7/4~31



調査期間 7/4~31

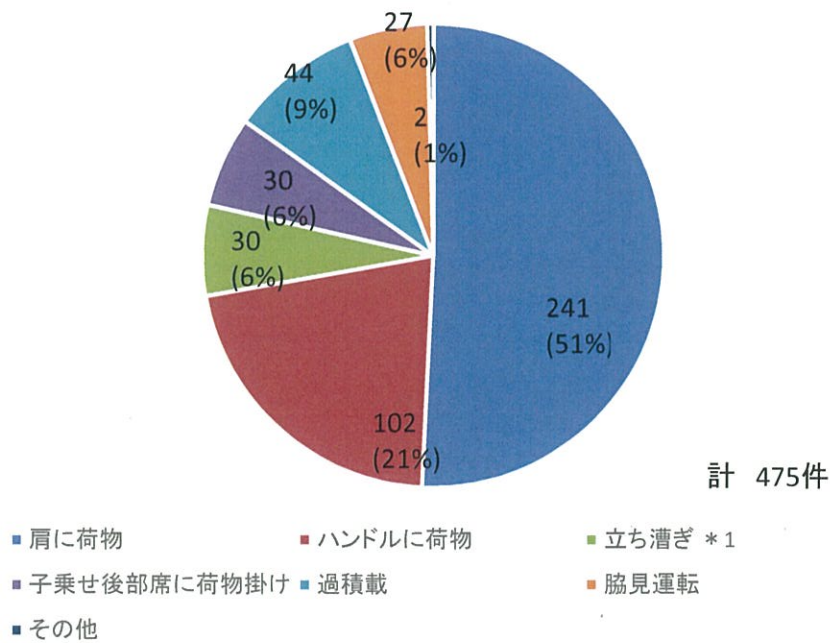
違反運転行為



調査期間 7/4~31

* 1 内13件 携帯電話を使用中の運転

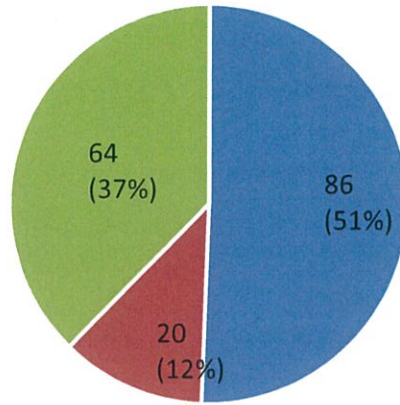
危険運転行為



調査期間 7/4~31

* 1 比率内訳: 上り坂26・下り坂4

違反運転行為(歩道上)



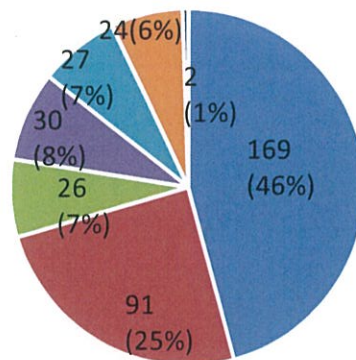
計 170件

■ 片手運転 *1 ■ ジグザグ運転 ■ スピード出し過ぎ

調査期間 7/4~31

*1 内11件 携帯電話を使用中の運転

危険運転行為(歩道上)

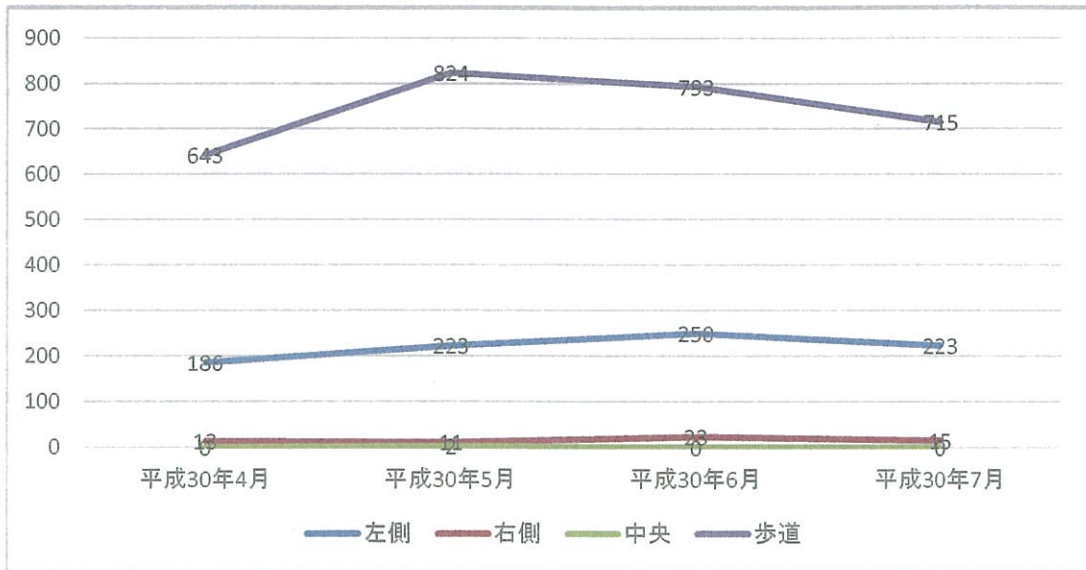


計 369件

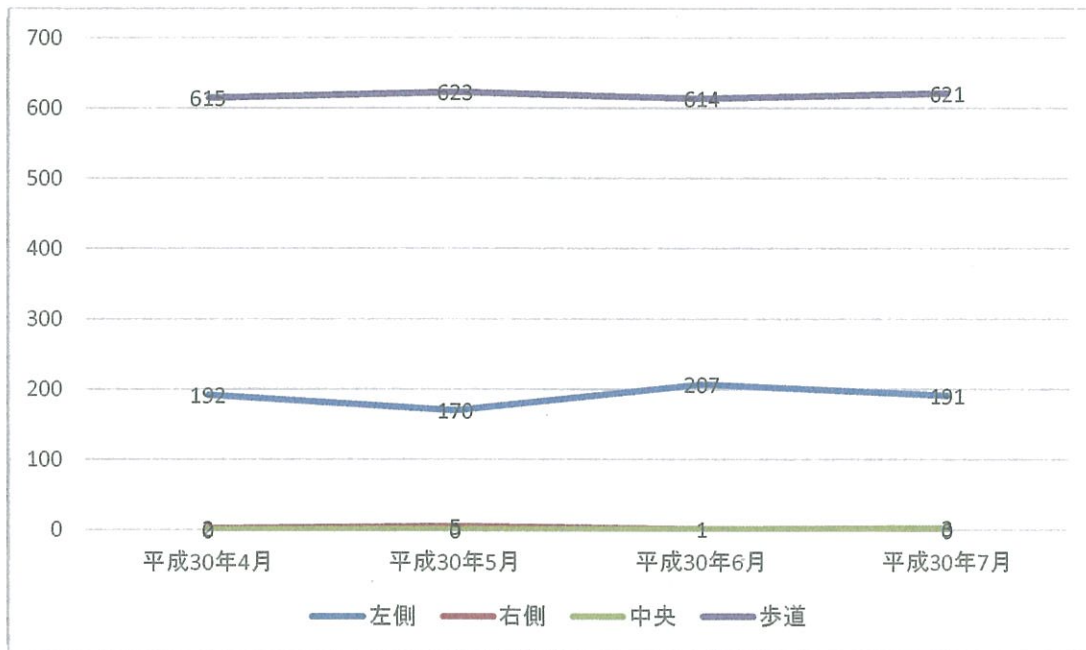
■ 肩に荷物 ■ ハンドルに荷物 ■ 立ち漕ぎ *1
 ■ 子乗せ後部席に荷物 ■ 過積載 ■ 脇見運転
 ■ その他

調査期間 7/4~31

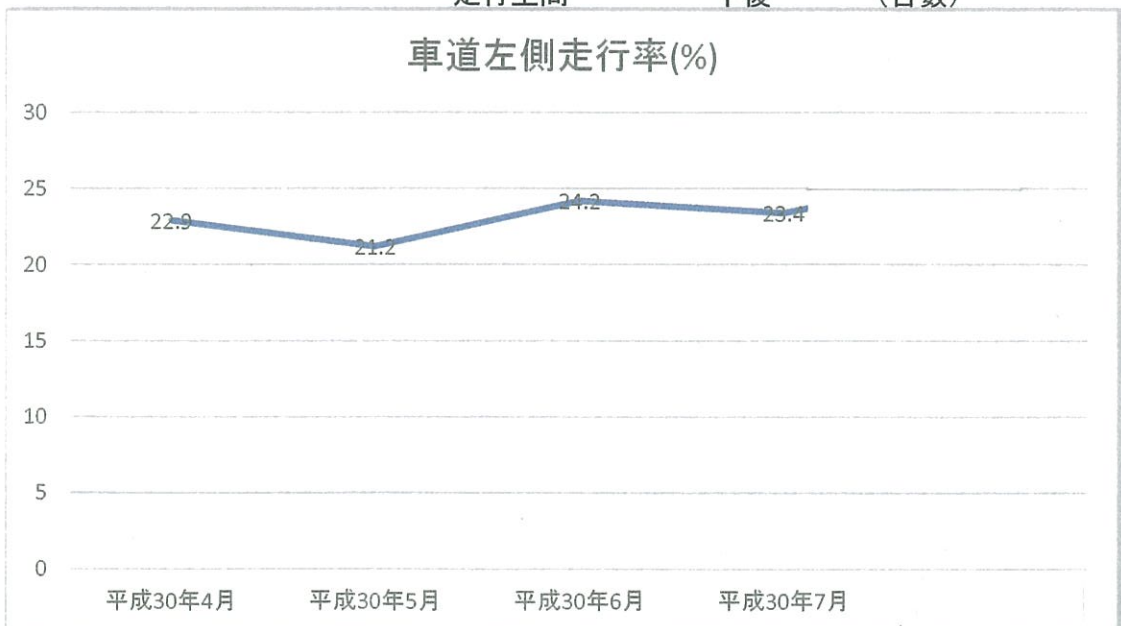
*1 比率内訳: 上り坂25・下り坂1

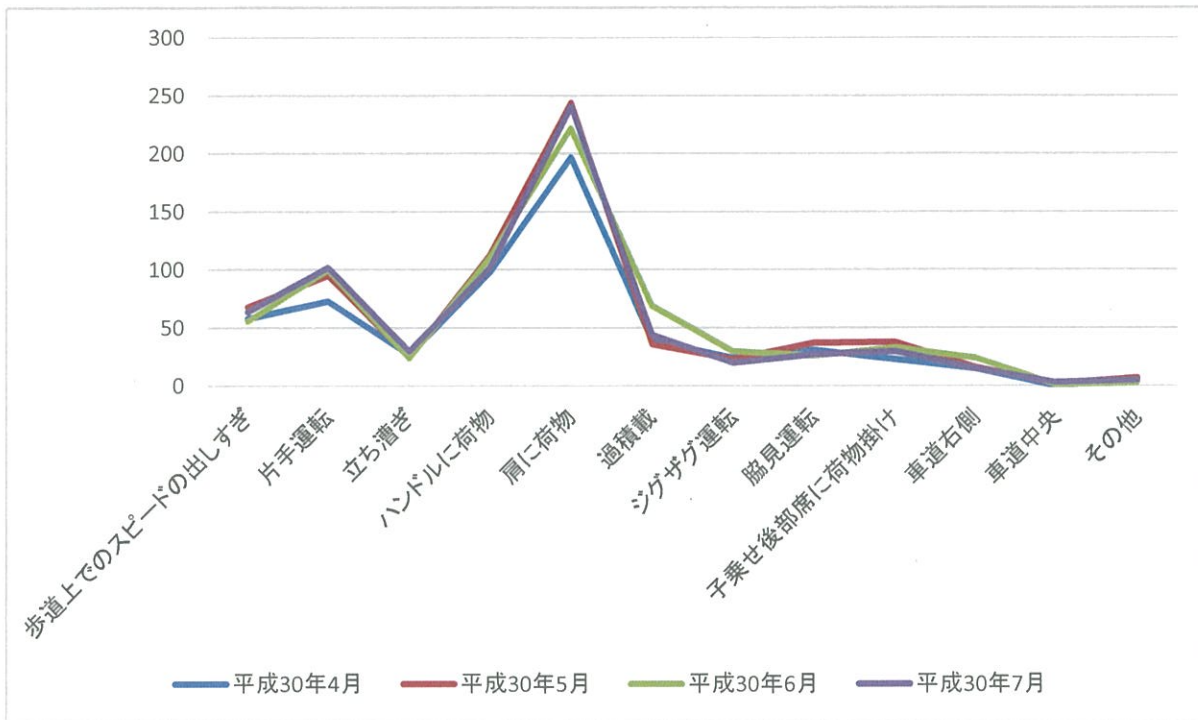


走行空間 午前 (台数)



走行空間 午後 (台数)





危険運転行為 (件)

自転車利用実態定点調査報告（B地点）

（一財）日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成30年7月26日
[午前]9:00～10:00/ [午後]14:00～15:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点（首都高速目黒線直下）から70m程の上り坂）

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])
調査対象外(反対側上り歩道)



上り線車道	歩道	← }	対象外 対象 エリア
	←直進・右折レーン		
	←直進レーン		
	←左折レーン		
	←左折レーン		
	歩道	↑	
	白金幼稚園		

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態調査結果表

No.	走行空間			車種	時刻	危険走行		
	車道左側	車道中央	歩道			違反	危険	その他
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								

調査日時	午前	午後	計	計	計
人数					
調査時間					

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、18%であり、また、車道中央走行率は、15%であり、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の6割強を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、車道中央走行(14件)・肩に荷物(13件)・片手運転(3件/内1件は、携帯電話を使用しながらの運転)・過積載(4件)・ハンドルに荷物(5件)・立ち漕ぎ(2件)の順となっている。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の7/25)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

今回(17.7%)に対し、前回(15.9%)の1.1倍の水準である。

なお、午前(22.4%)は、前回(15.7%)の1.4倍の水準である。

また、午後(10.5%)は、前回(16.7%)の6割の水準である。

なお、午前の上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・22%)に対し、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・22%)と同様の水準である。

また、午後の上り地点(11%)に対し、下り地点(28%)の4割の水準である。

・子乗せ自転車

今回(23%)は、前回(15%)の1.5倍の水準

上り地点(23%)に対し、下り地点(23%)と同様の水準

なお、同自転車における同乗者あり(36%)の場合でのヘルメット着用率は、75%である。

今回(75%)は、前回(75%)と同様の水準である。

さらに、ヘルメット着用率の上下線での比較として、上り地点(75%)に対し、下り地点(78%)と同様の水準

・電動自転車

今回(39%)は、前回(29%)の1.3倍の水準である。

上り地点(39%)に対し、下り地点(35%)の1.1倍の水準

・危険運転行為 上り地点の[車道中央走行・肩に荷物・ハンドルに荷物]に対し、下り地点では[肩に荷物・歩道上でのスピードの出しすぎ・片手運転]であり共通項目は、肩に荷物の1件となっている。

(違反行為を含む)

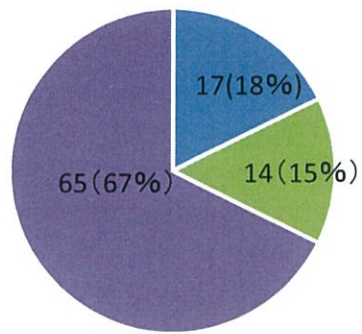
また、利用者全体(96名)における危険運転行為(違反行為を含み42件)の比率は、43%となっている。

上り地点(43%)に対し、下り地点(25%)の1.7倍の水準

なお、中央走行者については、基本、電動自転車を使用していない。

さらに、車道中央走行が多かった理由も、前回以前から同様に、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から道路中央を走行していたが、4車線での中間(両隣が2車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。

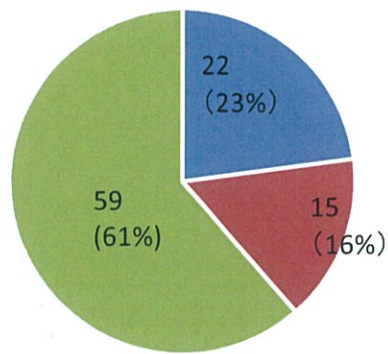
走行空間



計 96台

- 車道左側
- 車道右側(今回該当せず)
- 車道中央
- 歩道

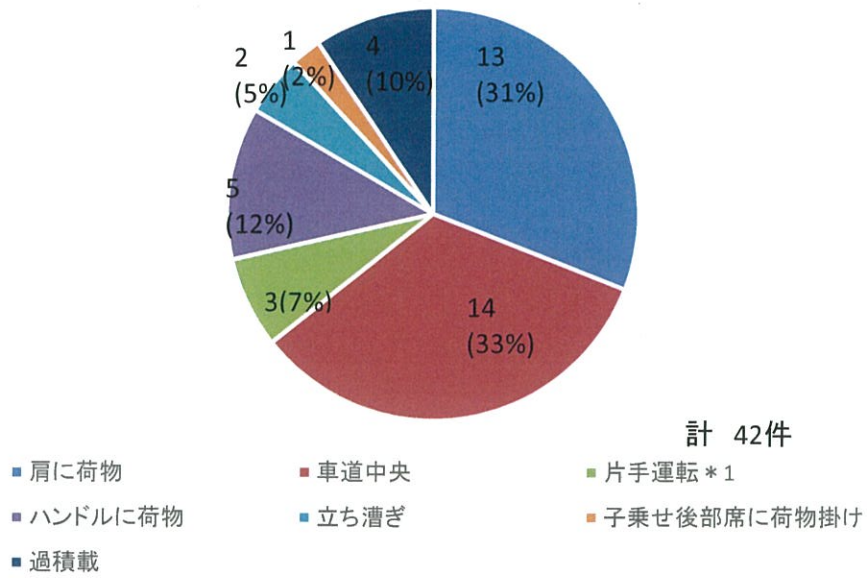
車種



計 96台

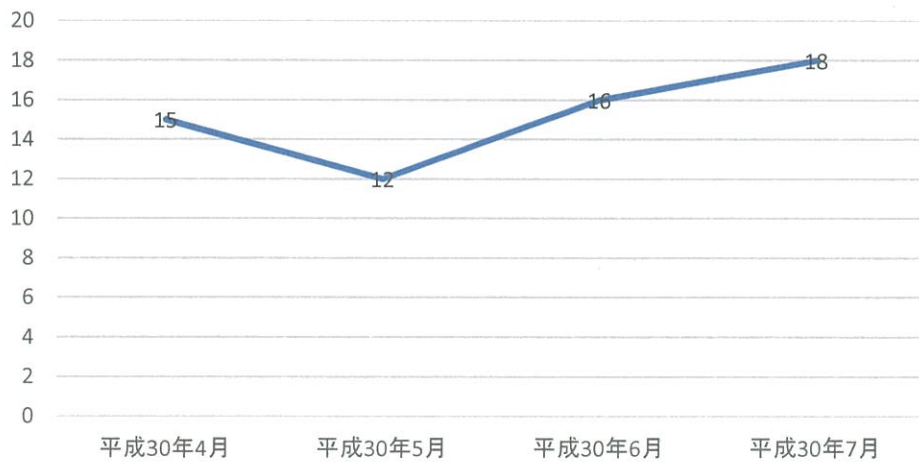
- 子乗せ(電動)
- 電動
- 一般車(スポーツ車含む)

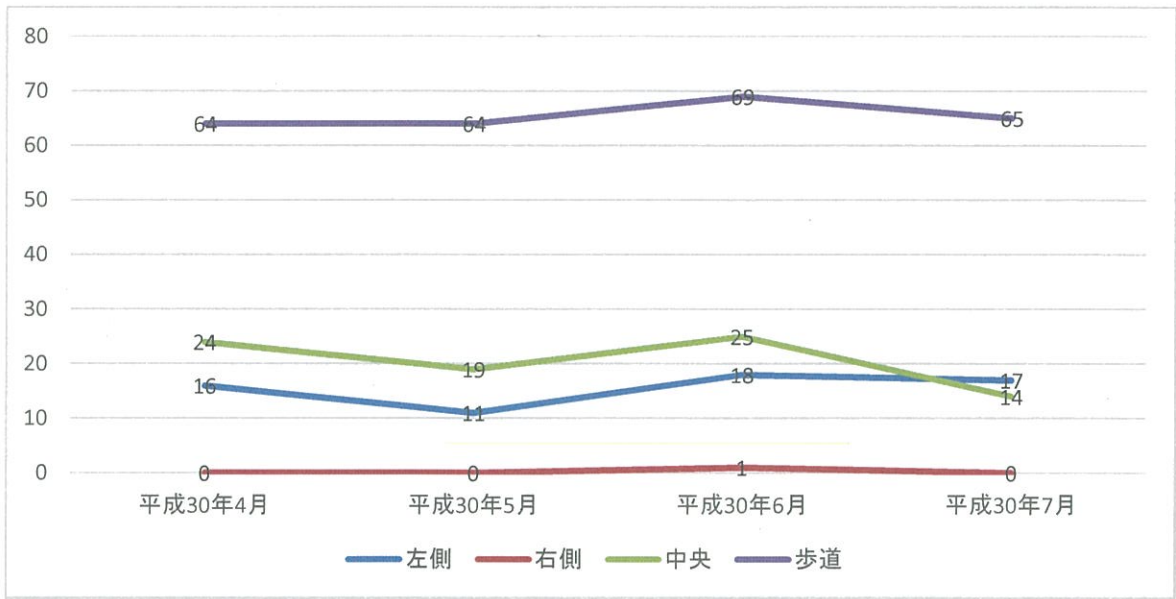
危険運転行為(違反行為含む)



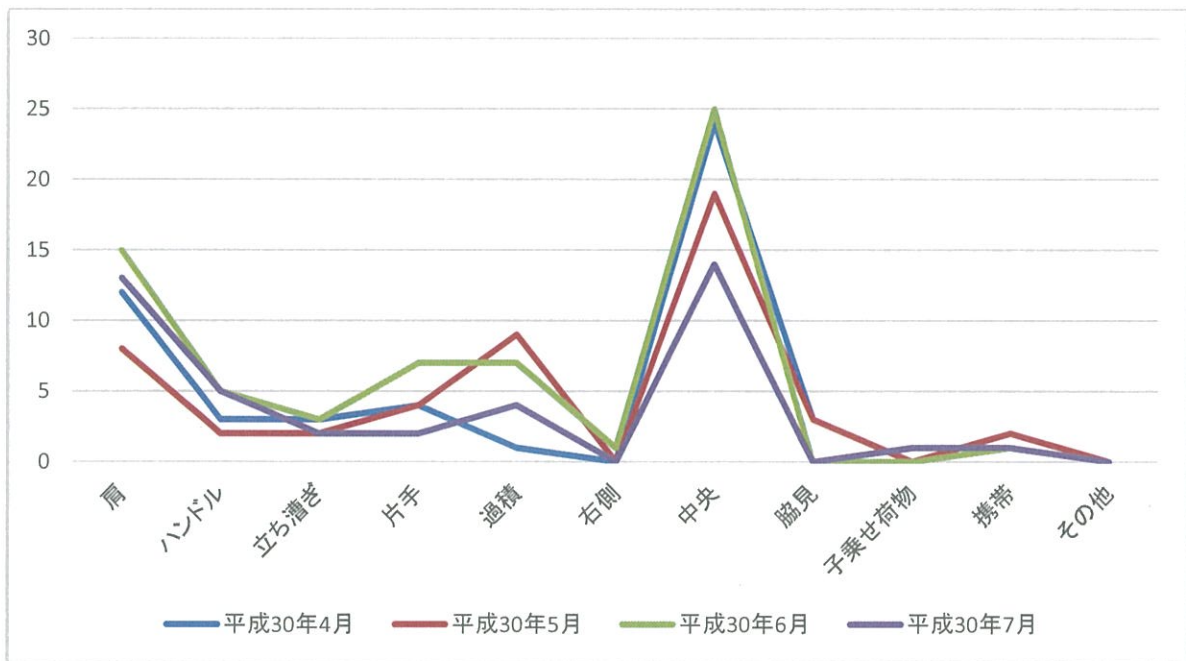
*1 内1件 携帯電話を使用中の運転

車道左側走行率(%)





走行空間 (台)



危険運転行為 (違反行為を含む) (件数)